

メディア情報工学科だより



2011年6月24日 第6巻第1号(通巻第15号) 沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科発行

学科近況

沖縄高専後援会総会では何人かの保護者の方と直接お話することができました。後援会を通して本校のさまざまな教育・研究活動に、保護者の皆様からご支援いただいていることにお礼申し上げます。3月にはメディア情報工学科本科から46名、専攻科から5名の学生が巣立っていきました。4月5日に入学式が行われ、42名(女子学生20名)の新入生が新たに加わりました。彼ら全員が高専での生活に満足して卒業してくれることを願います。専攻科1期生の卒業には間に合いませんでしたが、専攻科棟が漸く出来上がりました。本学科では、コンピュータ演習室1室、小人数授業や研究活動用のゼミ室3室と、研究室用スペース1室を設けました。タンスリヤボン先生が在外研究のため、来年3月まで1年間タイ国に滞在されます。タイ国の大学と本校との教育・研究活動の連携も研究テーマの一つになっていますので、本学科の学生の国際的な活躍の道が開かれることを期待しております。

(平成23年度メディア情報工学科長：角田 正豊)



各学年の話題(5年生)

学級状況について

5年生は高専本科最後の学年となりました。これまで同じクラスで過ごしていたため、団結力のある雰囲気の良いクラスになっています。4月30日に行われた体育祭でも、クラスが一致団結して学年優勝を飾ることが出来ました。早いもので卒業まで9ヶ月あまりとなりました。残り少ない高専生活を有意義なものにして欲しいと思います。



体育祭の様子(メディア5年)

就職・進学について

5年生は38名が在籍しています。その内27名(71%)が就職、11名(29%)が進学を希望しています。この就職と進学への傾向は1期生からこれまでほとんど変化していませんが、メディア情報工学科は他学科に比べ就職希望の割合が多いのが特徴です。

就職についてはリーマンショック以来の日本経済が立ち直っていない状況下において、東北の大震災の影響で非常に苦しい状況が続いています。今年の1月頃から就職活動がスタートしましたが、6月15日現在での内々定者数は10名(37%)と就職希望者の3人に2人はまだ就職先が決まっていません。今年度は震災で被害にあった東北の学生に配慮して採用選考を6月以降に延期する企業が多く出ているため、就職活動の長期化が懸念されますが、自分の夢の実現に向けてあきらめずに就職活動をして欲しいと思います。



進学については希望者11名中6名(55%)が合格しています。その内訳は九州工業大学4名、専攻科2名となっています。今月末までにいくつかの大学の合格発表があります。志望校に入学出来るようがんばって欲しいものです。

進路指導に関しては卒業までに全員の進路が確定するよう保護者の方と連携して進めていきたいと思っておりますので、ご協力よろしく申し上げます。

卒研配属について

本年度5年生の卒研配属先は以下のようになりました。各々が各研究室の教員の指導の下で、設定したテーマについて研究を重ね、今年10月には中間発表、来年2月には最終報告会が予定されています。なお、タンスリヤボン先生は在外研究で海外勤務のため、研究室への学生の配属は行われませんでした。

各研究室の配属学生一覧

研究室(教員名)	配属学生	
姉崎 隆	伊波 香純	大城 よしほ
	鎌本 拓海	座喜味 悠介
角田 正豊	赤嶺 貴野	石川 拓史
	金沢 洋輝	古堅 沙弥乃
正木 忠勝	伊佐 亮	下地 愛絵
	澤岨 祐貴	山根 誓史
伊波 靖	上原 佑介	大川 雄生
	瀧澤 勇生	永嶋 一帆
西村 篤	伊礼 愛美	上原 栄樹
	末次 みなみ	宮里 定尚
太田 佐栄子	久米 剛弘	平良 優香里
	宮城 一真	宮城 将
玉城 龍洋	安里 順貴	稲福 智秀
	清末 尊	濱元 栄人
鈴木 大作	内間 和季	平良 優乃
	知念 憲太郎	宮城 萌
佐藤 尚	久手堅 紗彩	仲宗根 翔子
	山田 弘人	
バイティガザカリ	渡慶次 茉莉子	屋良 朝紀

(メディア5年担任:正木 忠勝
就職・進学担当:伊波 靖)



各学年の話題(4年生)

学級状況について

一般の高等学校等で学んでいた同世代の仲間たちは、この春に就職や大学進学など、それぞれの新しい進路に進んだことと思います。1年後に本格的な就職・進学活動を控えた彼らは、インターシップの準備やビジネスマナー講習会などを通し、少しずつ自分の進路に対する意識を持ち始めたように感じられます。しかし、学生達と個人面談を通して進路に関する話をすると、就職したいと考えているが具体的な職業となると自分が何をしたいのか分からない、進学を考えている学生も、何のために進学するのか、大学で何を学びたいのかが分からない、といった学生が多いのが現状です。就職活動は早いところでは秋から冬にかけて、進学の場合は来年の今頃が試験時期となります(専攻科は4月に推薦選抜、5月に学力選抜の予定)。来年度の就職戦線も震災の影響等により本年度よりもさらに厳しくなることが予想されます。学生たちがご自宅に帰省した折には、進路についてお話し合いの機会を持っていただけますよう、何卒よろしくお願いいたします。また、一人でアパート生活する学生については、食事や生活のリズムの乱れないかなど、また車やバイクを運転する学生については交通事故等に十分気を付けるよう、ご家庭においても話し合っていただければと思います。



ビジネスマナー講習会の様子(4年メディア)

(メディア4年担任:鈴木 大作)

インターンシップについて

4学年ではインターンシップが必修科目となります。インターンシップとは、夏休み期間を利用して企業などで働く2週間の就業体験実習です。実施は2か月後ですが、企業とのマッチングやビジネスマナーの学習などはすでにはじまっています。不況の波は、もちろんインターンシップの受け入れにも現われており、全ての学生が希望の企業で就業体験できる訳ではありません。しかし、希望の企業・職種でなくても、将来の就職活動に対してはもちろん、現在学んでいることがどのように社会で使われているのか、また、働くということはどういうことなのかを学ぶ、大変有意義な体験になると考えられます。

社会のグローバル化にともない、企業には競合他社に競り勝つためのスピードが求められています。そのため、企業側が求めるのは、自ら学び、自ら仕事を創出することのできる人材です。このインターンシップの機会を通して、自分が何をしたいのか、何ができるのか、そして何故働くのかを真剣に考えて欲しいと思います。ご家庭におかれましても、「働くとは」、「良い人生とは」といったことを是非話し合ってください。

(メディア4年副担任・インターンシップ担当：玉城龍洋)



各学年の話題(3年生)

学級状況について

第3学年は学科別の学級が始まる学年です。これから卒業まで、同じ仲間と学校生活を送ることになります。これから一般科目の授業が少なくなり、専門科目の授業が増えていきます。また学業外では1~5年生までの全学年のまとめ役としてリーダーシップを発揮することになります。去る4月30日(土)に行われた体育祭では、3年メディアを中心に司会を始めとし、全ての競技にわたり全学年をリードして見事に無事成功させました。計画、準備にわたりみんなで協力して取り組んだ結果、一人一人の素晴らしい笑顔を見ることが出来たことは担任として誇らしく、学生の持っている力にこれからの大きな期待を持ちました。



今年度は4月の下旬から5月末にかけて、メディア3年の全学生に個人面談を行いました。沖縄高専に入学時に学生が考えていた将来の夢は、高専の卒業後は、「システムエンジニア、自動車関係の仕事に就きたい」「プログラミングができる仕事をしたい」と漠然と考えていたようでした。しかし年を追って工学の基礎知識や、メディア情報工学科に不可欠なプログラミング技術を学ぶ科目、さらに他の専門科目など学ばなければならないことが大幅に増え、今まで考えていた夢は生易しいことではないと、卒業後の進路に関して不安を感じる学生が多いことがわかりました。また就職は考えていても具体的な就職内容や希望企業・就職地域などはまだ決めていない、進学に関して

も何を勉強したいのか、どこの大学に行きたいのかわからない、という状況の学生も多く見られました。その対策としてLHRの時間を利用して、「卒業までの道のり」というテーマで進路についての説明を行いました。これからも学生の進路に関しては個人的な質問や相談などには随時対処し、必要であればクラス全体としても説明を再度行いたいと考えています。また、学生の就職や進学について保護者はどう考えているのか面談時に尋ねたところ、多くは「就職、進学のどちらにしても、学生自身の希望に任せる」と考える保護者が殆どのでした。保護者の皆様におかれましては、ご家庭で進路に関して話題が挙がった際には今までのご経験や幅広い知識を踏まえ、適切なアドバイス、ご指導を学生に提供していただきますようお願いいたします。ご質問、ご相談などがありましたら遠慮なくお話しください。



6月2~10日まで中間試験が行われました。ほっとしたいところですが気を緩めず、また暑くなりましたがしっかり体調管理を行って前期を乗り越えましょう。今後のLHRの計画として、以下のテーマで英語と日本語での発表会を計画しています。

日本語での発表テーマ	英語での発表テーマ
<ul style="list-style-type: none"> 自由と自立 人間の強さと弱さ 目標のある生活 ものの見方と考え方 政治と暮らし 高専のあり方 ネットと社会 日本人と英語 数学と物理 進学と就職 面接の仕方 数学と日常生活 日本の歴史について なぜ日本人は真面目の？ 豊かな人間性 個性の発見 職業と人生 技術者としての理想像 	<ul style="list-style-type: none"> Technology & Society Role of Media in our Society Is education important? The five Continents

(メディア3年担任：バイティガ ザカリ)



各学年の話題(2年生)

学級状況について

入学から早一年。学生たちは寮と学校の両方での生活に慣れてきた頃だと思われます。色々なことに慣れてくると、心に余裕ができ、周りをしっかり見渡しながらか適切に対処できるようになるなど、良い面が見られるようになります。しかし、逆に気持ちが緩み、簡単に規則を破ってしまう学生が出始めるのもこの学年からです。週末などに学生が帰省した際には、なるべく生活のリズムが崩れないように、保護者の皆様からも注意して下さいませう、宜しくお願い申し上げます。

1年生の時と同様、2年生でも学科別LHRを行います。今年度は3回行う予定で、第1回目は6月22日に行いました。この第1回目では、2年生が中心となって1年生との新歓レクを企画し、体育館でドッチボール大会を行いました。また、去年度とは異なり、今年度は5年生の有志もこのレクに参加し、総勢100名ほどが汗を流しました。学科別LHRの第2回目では、この5年生の中の数名に高専での生活や進路についてのお話しをしてもらい、第3回目では、キャリア教育の一環として、学生たちに自分が将来やってみたいことは何か、そしてそれを実現することができる進路先はどこなのか、などについて調べ学習を行ってもらう予定です。



学科別LHRでの
1、2、5年合同ドッチボール大会の様子

(メディア2年担任：佐藤 尚)



各学年の話題(1年生)

学級状況について

入学式直後の新入生オリエンテーションから、体育祭、中間試験まで、なんとあわただしい2ヶ月だったことでしょう。教員である私が言うのも何ですが、いささか余裕がなさすぎるのではないかと、という気がしないでもありません。高専のカリキュラムは5年(専攻科も入れると7年!)という長いものですので、学生生活の間には、途中で違う方向に走ってみたり、歩いたり、休んだり、という余裕も必要になってくるでしょう。さて1年生は、LHRの一環として、5月18日に本校カウンセラーで臨床心理士の國井昭男氏による講話「困った時、どうする?」を、また5月25日には県内で助産院の院長として自宅出産や性教育に取り組む助産師の小森香織氏の講演「いのちのメッセージ」を聞きました。いずれも、思春期には、将来の自立に向けて、悩んだり困ったりすることがあたりまえで、「できない自分」を受容して向き合うことが大切、という内容を含んでいたことが印象的でした。人は困難によって試され、それを乗り越える事によって強くなることができます。周囲の大人達が失敗や困難を避けることばかり考えていると、学生は自立するために自分自身を形成する時間と場所を持つ事ができなくなるでしょう。ありのままの自分を受け入れつつ、問題の解決や夢の実現に向けて粘り強く努力する心の余裕を、まず大人が持っているだろうかということ、学校でも家庭でも今一度確認したいものだと思います。

(メディア1年担任：西村篤)



編集後記

「メディア情報工学科だより」は、1学年以上の学生をお持ちのご家庭を対象に、年2回(6月と12月)発行している学科通信です。1期生が3学年となった平成18年度に刊行し、今年度で6年目となりました。ご意見ご要望がございましたら、是非下記連絡先までお知らせ下さい。また学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さいませうことも大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

【編集担当者連絡先】

〒905-9021 沖縄県名護市辺野古905番地

独立行政法人 国立高等専門学校機構

沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科 鈴木 大作

TEL:0980-55-4003(代) FAX:0980-55-4012(代)